

## 第1会場 (神戸国際展示場 2号館 1階南) ● 11 / 4 (月・祝)

## ●シンポジウム7 8:30~10:30

人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの意味と ◆302  
その応用：医療モデルから生活モデルへの転換

シンポジスト：

樋口範雄 (武蔵野大学 法学部 特任教授・東大名誉教授)

清水哲郎 (岩手保健医療大学)

伊藤 香 (帝京大学医学部附属病院 高度救命救急センター)

座長：木澤義之 (神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科)

## ●講演13 10:40~11:40

死の臨床をめぐる言葉：死を通じて得る「智慧」に気づく ◆271

講師：志真泰夫 (筑波メディカルセンター病院)

座長：安保博文 (六甲病院 緩和ケア内科)

## ●セミナー2 12:05~13:05

最期まであなたらしく生きるために—マズロー理論の全人的ケアへの応用 ◆275

講師：山形謙二 (神戸アドベンチスト病院)

座長：松田良信 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)

## ●市民公開講座 13:30~14:50

死を背負って生きる ◆278

講師：柏木哲夫 (淀川キリスト教病院名誉ホスピス長, 大阪大学名誉教授, ホスピス財団理事長)

座長：長尾和宏 (長尾クリニック)

## 第2会場 (神戸国際展示場 2号館 2階) ● 11 / 4 (月・祝)

## ●シンポジウム8 8:30~10:00

がんおよび非がん患者の終末期における薬の選択とマネジメント ◆305

シンポジスト：

畑 世剛 (宝塚市薬剤師会, 薬局らくらくファーマシー)

山口泰弘 (自治医科大学附属さいたま医療センター, 東京大学医学部附属病院 老年病科)

岡本禎晃 (市立芦屋病院)

座長：山本 亮 (佐久総合病院佐久医療センター 緩和ケア内科)

平井みどり (兵庫県赤十字血液センター)

## ●ワークショップ3 10:10~10:55

マインドフルネスの実践 ◆310

シンポジスト：

岩井圭司 (兵庫教育大学大学院 人間発達教育)

## ●ワークショップ4 11:05~12:25

STAS-Jの後継版 ◆311

：IPOS (Integrated Palliative care Outcome Scale) を用いてケアの質を高める

シンポジスト：

宮下光令 (東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野, IPOS普及・研究グループ)

**第3会場（神戸国際展示場 2号館3階） ●11 / 4（月・祝）****●企画委員会シンポジウム 8:30～10:00**

真の援助者を目指して ◆313

シンポジスト:

遠藤清次（絆診療所）

齋藤剛康（剛鍼灸治療院）

相田里香（青い鳥）

座長：小澤竹俊（めぐみ在宅クリニック）

**●講演12 10:10～11:30**

医療現場の意思決定はなぜ不合理になるのか—行動経済学から意思決定支援を考える ◆270

講師：平井 啓（大阪大学大学院 人間科学研究科）

座長：石川朗宏（石川リハビリ脳神経外科クリニック）

**第4会場（神戸国際会議場 メインホール） ●11 / 4（月・祝）****●講演8 8:30～9:30**

日本人の「死の文化」 ◆265

講師：波平恵美子（お茶の水女子大学 名誉教授）

座長：志真泰夫（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

**●講演10 9:40～10:40**

慢性心不全の緩和ケア：在宅の現場から ◆268

講師：弓野 大（医療法人社団ゆみの）

座長：坂下明大（神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター / 緩和支援治療科）

**●講演14 10:50～11:50**

死の臨床研究と現象学 ◆272

講師：浜渦辰二（大阪大学大学院 文学研究科）

座長：内布敦子（兵庫県立大学 看護学部）

**第5会場（神戸国際会議場 301（国際会議室）） ●11 / 4（月・祝）****●講演9 8:30～9:30**

看取りケア エビデンスとプラクティス ◆266

講師：宮下光令（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野）

遺族調査から看取りケアの実践へ

講師：林ゑり子（藤沢湘南台病院、東北大学大学院医学系研究科保健学 緩和ケア看護学教室）

座長：岡山幸子（宝塚市立病院 緩和ケア病棟）

**●講演11 9:40～10:40**

仏教の死生観と救済観からスピリチュアルケアを考える：震災の死、病の死 ◆269

講師：鍋島直樹（龍谷大学文学部、臨床宗教師）

座長：谷山洋三（東北大学 大学院文学研究科）

## ●講演 15 10:50~11:50

「施設の看取りで求められる家族との関係性の再構築」—介護施設で死ぬということ ◆273

講師：高口光子（湖山医療福祉グループ 医療法人財団 百葉の会）

座長：清水政克（清水メディカルクリニック）

## 第6会場（神戸国際会議場 401+402） ● 11 / 4 (月・祝)

## ●ワークショップ 2 8:30~10:30

こどもの看取りをする家族への支援を家族同心球環境理論（CSFET）で紐解く ◆309

シンポジスト：

法橋尚宏（神戸大学大学院 保健学研究科 家族看護学分野(家族支援 CNS コース)）

## ●事例検討 17 10:50~11:50

自己中心的な父，依存的な母，そして，多動な弟 ◆338

兄を失った後，家族再統合のためにできることは何か？

演者：塚原和香奈（聖路加国際病院 小児総合医療センター）

座長：中橋 恒（松山ベテル病院）

岩崎紀久子（淑徳大学看護栄養学部）

## 第7会場（神戸国際会議場 501） ● 11 / 4 (月・祝)

## ●事例検討 11 8:30~9:30

希少がんに罹患した AYA 世代の患者に対する医療者の葛藤 ◆332

演者：真上美千子（南風病院）

座長：原 敬（さいたま赤十字病院 緩和ケア診療科(緩和ケアチーム)）

長谷川陽子（順天堂大学医学部附属静岡病院 麻酔科・ペインクリニック科）

## ●事例検討 14 9:40~10:40

経済的問題を抱えた若年がん患者との関わり ◆335

演者：山本真由（大和高田市立病院）

座長：蘆野吉和（医師）

御牧由子（静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談）

## ●事例検討 18 10:50~11:50

「この腕を差し上げます」といった創外固定中の患者のアロマを活用したケア ◆339

演者：三谷野聰子（大月市立中央病院）

座長：花岡尚樹（あそかビハラー病院 ビハラー室）

若村智子（京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻）

**第8会場（神戸国際会議場 502） ●11 / 4（月・祝）****●事例検討 12 8:30～9:30**

緩和ケアチームと病棟の鎮静に対する信念対立が発生しチームの看護師として  
悩んだ事例 ◆333

演者：柚木三由起（津山中央病院 看護部）

座長：三宅 智（東京医科歯科大学大学院 臨床腫瘍学分野）

澤井美穂（東海中央病院）

**●事例検討 15 9:40～10:40**

患者の最期の希望である外泊の実現 ◆336  
—外泊に行けた喜びとDNARが尊重されなかった葛藤

演者：板井悠子（長岡赤十字病院）

座長：平野 博（松阪市民病院 緩和ケア病棟）

成清優子（なゆたの森病院 看護部）

**●事例検討 19 10:50～11:50**

高容量オピオイドの退薬症状としてけいれん発作をきたした1例 ◆340

演者：坂本雅樹（名古屋徳洲会総合病院 緩和ケア外科）

座長：安部陸美（松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科）

神谷浩平（山形県立中央病院 緩和医療科）

**第9会場（神戸国際会議場 504+505） ●11 / 4（月・祝）****●事例検討 13 8:30～9:30**

いっさいの連絡手段を持たなかった独居がん患者の在宅看取りの経験 ◆344

演者：井上明美（つじ訪問看護ステーション）

座長：白山宏人（大阪北ホームケアクリニック）

門脇睦子（訪問看護ステーションそよ風）

**●事例検討 16 9:40～10:40**

患者本人にバッドニュースを伝えないという家族の希望に対して緩和ケアチームは  
どのように寄り添えるのか ◆337

演者：佐々木慈瞳（奈良県総合医療センター）

座長：西村幸祐（岐北厚生病院 緩和ケアセンター）

本松裕子（東京医科歯科大学医学部附属病院 緩和ケア病棟・腫瘍センター）

**●事例検討 20 10:50～11:50**

ホスピス病棟で親族を看取った悲嘆を経験して—あなたは受け持ちますか？ ◆341

演者：八尋 郁（栄光病院 ホスピス病棟）

座長：比嘉勇人（富山大学大学院 医学薬学研究部）

小野芳子（山口赤十字病院 医療社会事業部）

## ポスター会場 (神戸国際展示場 2号館 1階北) ● 11 / 4 (月・祝)

- ポスター受付・貼付 11/3 (日) 9:00~11:00
- ポスター展示 11/3 (日) 11:00~11/4 (月・祝) 11:50
- ポスター撤去 11/4 (月・祝) 12:00~14:00

## Group 6-1 ポスター演題【ケアの対象／がん患者】 8:30~9:30

- 座長：山川 宣 (神鋼記念病院 緩和治療科) ◆399
- 2-A-01 診断後から終焉まで長期ストレス状態にあったがん患者の死の受容過程とケア  
堀華乃子 (元 安曇野赤十字病院)
- 2-A-02 家族との関係性が医療者の不全感を感じさせた直腸がんの1例  
三村卓司 (金田病院 外科)
- 2-A-03 若年がん患者のターミナルケアにおけるリハビリテーション  
市橋康佑 (MEIN HAUS)
- 2-A-04 終末期がん患者と看護師による音楽を通じたコミュニケーションとケアの深まり  
知念正佳 (静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程)
- 2-A-05 終末期がん患者における食支援一食を通じて希望につなげる  
浦田明美 (西福岡病院)

## Group 6-2 ポスター演題【ケアの場所／ホスピス・緩和ケア病棟】 8:30~9:30

- 座長：板倉崇泰 (兵庫県立丹波医療センター 内科、緩和ケア内科) ◆410
- 2-B-01 死を覚悟して語った希望「家族と一緒にいたい」を支えたケア  
山本起美代 (公立西知多総合病院 看護局)
- 2-B-02 地域包括ケア病棟と緩和ケア病棟の院内連携の検討  
長江浩幸 (総合病院 南生協病院)
- 2-B-03 ホスピスケア病棟看護師による終末期がん患者に対する口腔ケアの実態  
常見梨奈 (勤医協中央病院)
- 2-B-04 スタッフが看護に不全感を抱いた事例  
—数日の入退院を重ね在宅療養を継続したA氏にとってのホスピスとは  
橋本幸美 (ヴォーリス記念病院)
- 2-B-05 緩和ケア病棟看護師による終末期がん患者の倦怠感に対する認知と看護ケアの実態調査  
安藤留美 (勤医協中央病院)
- 2-B-06 外出・外泊の思いを、バーチャルリアリティー (VR) により叶えた1事例  
加治佐直子 (市立芦屋病院)

## Group 6-3 ポスター演題【ケアの体制／チームケア (病院)】 8:30~9:30

- 座長：吉岡 亮 (三菱京都病院 緩和ケア内科) ◆418
- 2-C-01 緩和ケア病棟で創作活動が及ぼす患者への影響について  
増村永善 (栃木県立がんセンター)
- 2-C-02 未告知のがん患者に対する緩和ケアチームの介入を振り返る  
平井順子 (徳島県立中央病院 緩和ケアチーム 看護師)
- 2-C-03 緩和ケア病棟の男性看護師がもたらす影響—働きやすい職場環境作りを目指して  
西部俊希 (岐北厚生病院)
- 2-C-04 緩和ケア病棟における事例検討会に参加した看護チームの成長過程  
上島 綾 (潤和会記念病院)

Group 6-4 ポスター演題【ケアの内容／グリーフケア】

8:30~9:30

- 座長：柏木雄次郎（関西福祉科学大学 心理科学部心理科学科） ◆425
- 2-D-01 故人のDVD作成を用いた、特別養護老人ホームにおけるグリーフケア  
細田 亮（くぬぎ山ファミリークリニック）
  - 2-D-02 自死遺族である依存性パーソナリティ傾向のあるがん患者に、グリーフケアを多職種チームで行った事例  
岡本宗一郎（あそかビハーラ病院）
  - 2-D-03 終末期の若年進行がん患者と家族へのグリーフケアに関する1考察  
長嶺美奈子（大阪医科大学附属病院 看護部）
  - 2-D-04 救急外来での看取りにおける看護師の悲嘆ケア—デスカンファレンスの効果  
小松繭子（本荘第一病院）
  - 2-D-05 緩和ケア病棟で撮影した写真が遺族に与える影響  
米野隆晶（北見赤十字病院／浦河赤十字病院／）

Group 6-5 ポスター演題【教育／死への準備教育、介護・福祉従事者への教育、一般市民への啓発】

8:30~9:30

- 座長：小松万喜子（愛知県立大学 看護学部） ◆428
- 2-G-01 中学校におけるいのちの授業の効果（第1報）：中学生の「いのち」のイメージおよび死生観と自尊感情との関連  
坂口幸弘（関西学院大学 人間福祉学部）
  - 2-G-02 中学校におけるいのちの授業の効果（第2報）：いのちの大切さを学ぶ教室の実践と生徒の主観的評価  
赤田ちづる（関西学院大学大学院 人間福祉研究科）
  - 2-G-03 中学校におけるいのちの授業の効果（第3報）：いのちの大切さを学ぶ教室前後および1カ月後での効果の検証  
伊東由康（兵庫県立大学 看護学部）
  - 2-G-04 介護スタッフ向けエンド・オブ・ライフ症状別支援システム開発後の影響  
和田由美子（市立大町総合病院 看護部）
  - 2-G-05 市民に向けたデス・エデュケーション—病院祭で入棺体験を試みて  
岩崎美幸（国民健康保険 飛騨市民病院）

Group 7-1 ポスター演題【ケアの体制／在宅緩和ケア】

9:40~10:40

- 座長：岡本双美子（大阪市立大学大学院 看護学研究科） ◆420
- 2-C-05 「尊厳死」について考えさせられた症例  
—「家で死にたい」という思いを叶えるために  
園田和美（熊本第一病院）
  - 2-C-06 もどかしさを感じた在宅緩和ケアの症例報告  
小林篤史（ゆうホールディングス／岐阜薬科大学 在宅チーム医療薬学講座／）
  - 2-C-07 在宅での看取りにおける訪問リハビリテーションについて（第2報）  
目良幸子（たなかクリニック）
  - 2-C-08 人生の最後まで安心して暮らせるシマを目指して—1,490人の村での在宅みとり  
小川 信（国民健康保険大和診療所）
  - 2-C-09 在宅看取りの希望を叶えることができなかった独居高齢女性事例に対する訪問看護師の心理的葛藤  
西村勇子（訪問看護ステーションこうせい）

## Group 7-2 ポスター演題【ケアの対象・ケアの体制／高齢者、認知症、在宅緩和ケア】 9:40~10:40

●座長：花木宏治（滋賀県立総合病院 緩和ケア科）

◆416

- 2-B-13 当院緩和ケア病棟での作業療法の男女差からみた終末期患者のQOLへのアプローチについて  
西田一広（市立大津市民病院 リハビリテーション部）
- 2-B-14 A病院緩和ケア病棟における予後予測ツールの評価  
高木健司（津島市民病院 外科・緩和ケア科）
- 2-B-15 終末期がん患者の褥瘡ケア—向き合い続けることから学ぶ  
西宮法子（日野原記念ピースハウス病院）
- 2-B-16 A病院緩和ケア病棟における患者の入退院の動向と今後の課題  
浅野志保（山形大学大学院 医学系研究科 博士後期課程）
- 2-B-17 緩和ケア病棟入棟時に調査・研究への同意を依頼する試み  
西里卓次（札幌清田病院 緩和支援医療センター 緩和ケア内科）

## Group 7-3 ポスター演題【ケアの体制／地域包括ケアシステム】 9:40~10:40

●座長：酒井禎子（新潟県立看護大学 成人看護学）

◆423

- 2-C-10 地域における看取りの体制構築に向けた望ましいがん診療連携  
青木美和（大阪大学大学院 医学系研究科）
- 2-C-11 医療ニーズの高い重度者を地域で支える—船戸クリニック天音の里の取り組み  
松久宗丙（船戸クリニック天音の里）
- 2-C-12 重度障がい児の親の就労支援システム  
市橋正子（MEIN HAUSデイ）
- 2-C-13 当院緩和ケア病棟から在宅移行後に緩和ケア病棟へ再入院した患者についての解析  
伊藤浩明（岐阜県立多治見病院）
- 2-C-14 地域包括ケア病床を利用した家族のサポートにより、意欲とADLが改善した1例  
鈴木浩之（和歌山県立医科大学附属病院紀北分院）

## Group 7-4 ポスター演題【コミュニケーション／意思決定支援】 9:40~10:40

●座長：成定啓子（姫路市医師会 姫路市在宅医療・介護連携支援センター）

◆430

- 2-H-01 自己決定が可能な患者であったが、家族の希望を優先した1事例を通して  
田中奈美（國富胃腸病院）
- 2-H-02 18歳の息子と父親への意思決定支援で生じた倫理的葛藤について  
—本人の知る権利・自律尊重をめぐって  
船浪紀子（河北訪問看護・リハビリステーション阿佐谷）
- 2-H-03 MSWが行う「患者の意思決定支援」を改めて考える  
福澤公美（札幌清田病院 緩和支援医療センター 医療相談室・地域医療連携室）
- 2-H-04 重症心身障害児者の緊急処置や終焉に対する支援提供への課題  
津本 愛（愛知県医療療育総合センター中央病院 こぼと棟）
- 2-H-05 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者・家族の意思決定支援  
—人工呼吸器装着を希望しなかった患者の1事例  
田村ゆみえ（盛岡つなぎ温泉病院）
- 2-H-06 突如死期が迫った膵臓がん患者に対する支援を考える  
荒井広子（倶知安厚生病院）

## Group 8-1 ポスター演題【ケアの対象／がん患者】 10:50~11:50

- 座長：渡辺 剛（渡辺緩和ケア・在宅クリニック） ◆401
- 2-A-06 難治性の疼痛に対し強オピオイドの変更，およびトラマドールの併用が有効であった直腸がんの1事例  
飯田邦夫（協立総合病院 緩和ケア診療部）
- 2-A-07 不安の強い終末期がん患者の希望を支えるために  
—記念写真の撮影をきっかけに在宅へ移行できた事例  
箱石奈津子（戸田中央総合病院 緩和ケア病棟）
- 2-A-08 がん終末期海外旅行患者の帰国に向けて行った支援  
—胸水貯留により酸素が必要になった1事例  
一戸真紀（青森市民病院）
- 2-A-09 苦悩を表出しない患者とのケアリング・パートナーシップ  
濱口瀬奈（土岐市立総合病院／中京学院大学／）
- 2-A-10 援助的コミュニケーションにより終末期にある若年成人がん患者の希望を地域と共に支えた1事例  
吹田智子（箕面市立病院 がん診療推進部）

## Group 8-2 ポスター演題【ケアの対象／家族，小児】 10:50~11:50

- 座長：吉田智美（滋賀県立総合病院 緩和ケアセンター） ◆404
- 2-A-11 終末期を迎える患者家族への関わり方  
仲塚敦子（佐渡市立両津病院）
- 2-A-12 現状を受け止めきれない妻への支持的な関わり  
尾田明日実（洞爺温泉病院 緩和ケア病棟）
- 2-A-13 医療者へ指摘や要望を繰り返し続ける家族へのケアから学んだこと  
—DVを伴う家族背景を読み解く  
中村優里（古賀病院21）
- 2-A-14 自立度が高い終末期患者の退院支援を考える  
長谷川典子（木沢記念病院）
- 2-A-15 医療用麻薬使用に対する不安や誤解のある家族の気持ちの変化を知る  
—家族にインタビュー調査を行って  
山内朋子（安岡病院）
- 2-A-16 聖路加国際病院における全スタッフに開かれたターミナルケアカンファレンスの意味 小児の視点から  
黒子由梨香（聖路加国際病院）

## Group 8-3 ポスター演題【ケアの対象／小児，高齢者，認知症】 10:50~11:50

- 座長：得丸定子（上越教育大学 名誉教授） ◆407
- 2-A-17 両親の希望に寄り添うことでの予期悲嘆への支援  
—集中治療室という限られた環境のなかで  
奥水史代（広島市立広島市民病院）
- 2-A-18 脳幹神経腫瘍で余命告知を受けた児の母にとっての子の成長と母子のつながり  
矢野恵理（長野県立こども病院）
- 2-A-19 AYA世代の患者を子にもつ親の予期悲嘆に関する1事例  
伊藤千絵（山形大学医学部附属病院）
- 2-A-20 ICUと病棟が連携し行った終末期の子どもに対する支援 七五三を実施し母親へグリーフケアにつながった1事例  
平野麻実子（広島市立広島市民病院）

- 2-A-21 終末期がん患者の「食べる」思いを支えた1事例  
内田恭子（松江市立病院）
- 2-A-22 手術を拒否する認知症をもつがん患者の意思決定支援  
—多職種で倫理カンファレンスを行っての1考察  
西村亜希子（日野市立病院）

**Group 8-4 ポスター演題【ケアの場所／ホスピス・緩和ケア病棟】 10:50～11:50**

- 座長：長田 明（つくばセントラル病院 緩和ケア科） ◆413
- 2-B-07 在宅療養を上手に勧められるホスピスケアとは  
奥野貴史（ヴォーリズ記念病院 ホスピス希望館）
- 2-B-08 安心して治療・療養を行うための早期の緩和ケア病棟入院相談の実施  
船木康二郎（富山市立富山市民病院）
- 2-B-09 がん終末期の親をもつ青年期の子どもの感情表出を促すための認定看護師の支援  
船曳ゆうか（倉敷中央病院）
- 2-B-10 緩和ケア病棟での意思疎通困難な患者のケアを振り返る  
福富克実（自治医科大学附属病院）
- 2-B-11 緩和ケア病棟を利用した病病連携  
大津裕佳（三菱京都病院）
- 2-B-12 緩和ケア病棟での笑いヨガの提供  
—最期まで笑いヨガが生きる支えとなったA氏との出会いから  
松山寛子（高槻赤十字病院）